

外国語科における国際理解教育に関する授業実践

小林 梨絃乃 ・ 松宮 奈賀子*

1. はじめに

広島大学附属東雲中学校（以下、本校と略記）は、国際人としての資質・能力の育成を目的とし、国際理解教育を推進している。本校が捉える「グローバルマインド」とは、「自分とは異なる考え方や価値観をもつ世界中の人たちに対して、相手の気持ちを理解し、そのうえで自分自身のことを伝えたいと思える気持ちや伝えようとする意欲、態度」（龍岡・坂本, 2022）であり、外国語科における「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関わる目標「(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」と大きく関連する。加えて、文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編指導要領では、「外国語の学習を通して、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができる人材を育てること」が必要であるとされている。このような本校の教育活動と外国語科の目標を踏まえ、本校の第2学年を対象とした外国語科の授業を展開した。以下に、実施した授業の実際と生徒の記述を示し、成果と課題を記す。

2. 授業の実際

2.1 概要

対象 2021年度 第2学年 80名

題材 Unit4 Homestay in the United States NEW HORIZON English Course 2（東京書籍）

目標

自分と異なる考えや価値観との共存に対する理解を深めるために、ホームステイに関する教科書本文から習慣や文化の違いを読み取ったり、コミュニケーションの大切さについて考えたりすることができる。

2.2 単元の全体（全8時間）

第1時	<ul style="list-style-type: none">Scene①の文法事項の理解と練習異文化理解を疑似体験するゲーム「バーンガ」のプレイと振り返り本単元の見通しの確認
第2時	<ul style="list-style-type: none">「バーンガ」の振り返りの共有Scene①の内容理解Scene②の文法事項の理解と練習
第3時	<ul style="list-style-type: none">Scene①と Scene②の文法事項の練習（ALT との Team Teaching）
第4時	<ul style="list-style-type: none">Scene②の内容理解
第5時	<ul style="list-style-type: none">Read & Think ①②の文法事項の説明と練習Read & Think ①の内容理解

* 広島大学大学院人間社会科学研究科

Natsuno KOBAYASHI, Nagako MATSUMIYA

English Classes to Deepen International Understanding

第6時	<ul style="list-style-type: none"> ホームステイ先で, こんな時どうする? (ALT との Team Teaching)
第7時	<ul style="list-style-type: none"> Read & Think ②の内容理解
第8時	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体の振り返り 単元を貫く問いへの解答

2.3 各時の具体

【第1時】

まず始めに, Scene①で学習する文法事項, 助動詞 (have to) を導入し, その理解を基に, 異文化理解を疑似体験するゲーム「バーンガ」のルール説明を行った。(You have to make a group of four. / You have to follow the rules. / You have to keep silent. / You have to read a paper by yourself. など)

本授業で行った「バーンガ」は, ミッションの指示に従ってカードを並び替えるまでの時間を競う, グループ対抗のタイムアタック形式で行った。ゲームのルールは, 1) プレイヤーは, 自分のミッションカードしか見えてはいけない 2) 喋ったり, ジェスチャーを使ったりしてはいけない, とした。これをグループのメンバーを変えながら数回行う。はじめは, グループのメンバー全員に同じミッションを配付するため, ミッションはすぐに達成される。しかし, クラス全体では複数のミッションが配付されており, メンバーをローテーションすると, グループ内のメンバーでカードを並べたい順番が異なるため, 中々ミッションが達成されない。プレイ中は, 言葉によるコミュニケーションが取れないもどかしさで相手に憤りを感じたり, 状況を理解できずにミッションを中断してしまったりする姿が見られた。

数回メンバーを入れ替えたあと, ゲームのからくりを説明した。ここで, ミッションの違いを価値観や文化・習慣の違いに置き替えながらゲームの意図と単元の見通しを説明し, ワークシートを記入させて回収した。ここで, 「What is important in a homestay?」を, 単元を貫く問いとして設定した。



**English Newsletter
for 2nd graders**

**No.11
September 20th, 2022**

**to be to be
ten made to be**

○ We played the game “バーンガ”.

異なるルールが配られていることを知らないプレイヤー同士がゲームをプレイすることで, 異文化を疑似的に体験するゲームを『バーンガ』といいます。今回, ゲームをしてみて, みなさんが感じたことを以下に掲載します。(Q2は省略)

Q1) ゲームをしている時, どんなことを感じましたか?

私は何をしているんだろうか。
 ぁ? ん?
 ????? どういうこと???? と思っていた ルールが良く分からない
 相手がどういうルールでカードを並べているんだろう? と感じました
 全然合わない
 相手と全然かみ合わないって思いました。お題がぶん違うから, 相手が納得してくれない
 唖然
 お互いの意見が食い違ってなのに, 声を出せないから伝えられなかった。
 もどかしかった
 テーマが2種類
 何も感じない
 違和感感じなかった。楽勝と思っていた。
 相手のしていることが分からなくて混乱したけど, じっくり考えて相手の行動を見ると分かった

違和感には気づいたけど仕掛けまでは分からなかった人もいれば, ミッションが複数あることまで気づけた人, 違和感がそもそもなかった人, と色々な人がいたようです。

〈図1: 英語通信〉

Q3) “あたりまえ”が異なる人々と分かりあう為には, どんなことが必要・大切だと思いますか。

○ 必要・大切なことは…

説明する	コミュニケーション力が必要だと思う
話し合うこと・しゃべる	意見を言い合う
アイコンタクト	世界の言語を1つにする
対話(言葉じゃない)	めげない
相手の価値観を知る	お互い分かる方法で意思疎通する

○ どちらか一方が…


相手を理解する(できたら)
 自分の中の当たり前を捨てるか, 当たり前が異なる人とたくさん会って, 自分の中の当たり前を捨てる。つまり自分の中の当たり前を捨てる。あと気持ち。
 自分の当たり前を相手がわかるまで伝える力が必要
 相手が自分と同じ生活をするか, 自分が相手の生活をする
 相手の考え・行動を受け入れる。自分の考え・意見を相手に伝えて, 受け入れてもらう。

○ お互いに…

互いの意見を尊重する
 相手のことを理解しようとする。自分のことを説明する。相手の意見と自分の意見をミックスする
 その人にとって必要なものが違うから, それをお互いに知り合う。話し合い。
 相手の意見と自分の意見を比べて, どうやって分かりあうか考えることが必要。それを考えようとして行動に移したりするといい。
 みんなの当たり前をつくる
 その当たり前を自分の意見と混ぜる

○ そもそも…

無理。常識が無いやつに, 何を言っても意味ないから。
 相手のことを理解・変化させようとせずに, どちらも干渉しあわない。放っておけばいい



〈図2: 英語通信〉

【第2時】

前時の振り返りとして、英語通信(図 1・2)を配付し、意見を共有しながら単元を貫く問いを再確認した。振り返りの後は、教科書本文の Scene①の新出単語の導入、リスニングを行ったのち、ロイロノートを使用し、本文で最も重要だと考える箇所に線を引き、理由を書く活動を行った。また、次時に ALT による文法の習得をターゲットとした言語活動を予定していたため、Scene②の文法事項、助動詞(must)の形式と機能などを説明した。

【第3時】

ここまでの振り返りとして、have to と must をターゲットとした言語活動を ALT 主導で行った。

【第4時】

はじめに、Scene①と Scene②の新出単語と文法の理解度をはかるために、小テストを実施した。続いて、テレビ番組「はじめてのおつかい」が Netflix で公開された際の実際の SNS 上での反響を取り上げることで、登場人物のホームステイ先と日本の環境・習慣の違いについて導入したのち、本文理解のために、新出単語の確認とリスニング、読解に取り組んだ。

【第5時】

Read & Think ①と②の文法事項をまとめて導入・練習したのち、本文の登場人物の悩みを整理し、それに対する返答を英語で表現する活動をロイロノート上で行い、クラスで共有した。

【第6時】

教科書以外のホームステイ先でのトラブルを取り上げて、どのように対処すべきか考える活動を ALT 主導で行った。

【第7時】

教科書本文の内容を発問に答えながら整理した。

【第8時】

本時の最後に、単元を貫く問い「What is important in a homestay?」について改めて考えることを確認し、単元全体の振り返りを行った。最初に、「バーンガ」を自分たちがプレイしている様子の録画を視聴し、当たり前(=文化や習慣、価値観)が違う人との関わりについて考えたことを思い出した。その後、教科書のシーンごとに、登場人物ごとの「当たり前」を全体で整理しながら、当たり前が違う時、困った時の登場人物の言動に着目させたのち、「What is important in a homestay?」に対する各々の考えを記述させた。

3. 生徒の記述とそれに対する考察

3.1 生徒の記述

以下に、生徒の「What is important in a homestay?」に対する記述の抜粋を、(A) コミュニケーションに着目したもの (B) 言語に着目したもの (C) 異文化理解に着目したもの (D) マナーに着目したもの (E) その他、の観点で分類して示す。なお、英語の誤りなどは直さずに、実際の記述をそのまま示している。

(A) コミュニケーションに着目したもの

- I should say my feeling.
- It is important to thinking partner's brain.
- It is important to talk something. It is important to think hostfamily's feeling.

<ul style="list-style-type: none"> • It is important to communicate in home stay. • It is important to say my idea. • お互いのことを思い合うこと is important in a homestay. • Communicate is important in a homestay. Homestay is happy. • If you have a puestions, asking for hostfather and host mother and understanding is important. • It is important to tell my opinion. • It is important to say my idea in a homestay. Listening to hostfamily's idea carefully is important. It is important to believe your hostfamily.
(B) 言語に着目したもの
<ul style="list-style-type: none"> • It is important to learn about foreign language in a homestay. • It is important to fight speak English in a homestay. • kept trying is important in a homestay, to speak English. • Speaking English is important in a homestay.
(C) 異文化理解に着目したもの
<ul style="list-style-type: none"> • It's important to understand about foreign cultures. • It is inportant to understand different culture in a homestay. • Thinking each othere is important in a homestay. • Studying many countries culture is important. • It is important to talking with different culture people in a homestay. • Understanding each other. Be kind. • It is important to stady その国について in homestay.
(D) マナーに着目したもの
<ul style="list-style-type: none"> • Greeting is important in a home stay. • It is important to follow the fause rules in a homestay.
(E) その他
<ul style="list-style-type: none"> • Thinking is important in a homestay. • It is important to try understanding. • Trying is important in a homestay. • It is important to don't worry in a homestay. • It's important to try everything in a homestay.

3.2 生徒の記述に対する考察

内容に関しては、教科書本文を基に、自分が重要であると考え要素を選んだと推測される記述が全体に共通して見られた。また、単元の始めは、言語に着目した生徒が多かったが、単元の終わりには、コミュニケーション・異文化理解に着目した生徒が多かった。

英語の使用面に関しては、動名詞や It is ~ to … を用いた文の構造への理解が定着していないものが多々見られた。

4. 成果と課題

今回扱った題材は、ホームステイに関するものであり、年度末に姉妹校との交流を控えた生徒たちにとって、関心の高い内容であった。ただ、自分とは異なる考えや価値観・習慣は、異なる国の人々との間だけに生じるものではなく、クラスの生徒同士など、実生活の人間関係でも直面するものである。その点については、授業で触れることはあっても、生徒にどれほど定着したかは不明であるが、生徒の記述を見ると、異なる国の人々との交流を題材とした教科書本文の内容は定着したと考えられる。このことから、今回の実践が、本校の国際理解教育の取り組みへの橋掛けになったのではないかと捉えている。

もちろん外国語科では、言語の使用面における資質・能力の育成を図る必要があり、技能の定着と題材の扱いとのバランスには反省が残る。しかし、英語をツールとして用いた先に、生徒が自分自身の内面、あるいは他者と向き合う場として機能するような授業実践を今後も目指したい。

【 引用・参考文献 】

龍岡寛幸・坂本善彦(2022),「グローバルマインドを培う教育実践と検証方法の改善 - 「SMARTプログラム」の取り組みを通して-」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要, 中学教育第51集, 82-88.
文部科学省(2018) 中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 外国語編.
笠島準一ほか(2021), NEW HORIZON English Course 2, 令和2年文部科学省検定済み, 東京書籍.